

2019年度事業報告書

I 概況

1. 入館者

2019年度は入館者数増と認知度を高めるため、様々な展示・イベントを開催いたしました。平成・令和の関連資料展示（平成最後の試合ウイニングボール、令和最初の試合の第1球、令和第1号本塁打バット、ボール等）、特別展「平成の高校野球」、プレミア12優勝トロフィーや関連資料展示などが好評を得、入館者増に繋がりました。さらに、各企画展に応じたトークイベントを適宜開催し、話題性を高めました。

夏休み恒例の「野球で自由研究！」は、2019年度も多く小学生が参加しましたが、第4回目となりました「野球で自由研究！コンテスト」では、過去最高の107件の応募がありました。

また、6月12日には入館料を一律60円とする開館60周年記念の特別企画を実施し、お客様への感謝と誘客を行いました。

この様に、幅広い年齢層にわたり、様々な企画を開催し野球の振興・普及に努めた結果、入館者数は2年連続で10万人超を達成することができましたが、2月より新型コロナウイルスの影響が出始め、3月は臨時休館を行ったため、前年比5.6%減の105,759人（前年比-6,230人）となりました。

2. 維持会員

維持会員は法人62社（前年比、4社増）、個人会員144人（同、8人増）、ジュニア会員6人（同、1人増）となりました。今後も、さらに加入活動の促進と会員特典などの見直しを図り、ファン拡大に努めてまいります。

3. 野球殿堂

競技者表彰の立浪和義氏、権藤博氏の表彰式は、7月12日（金）東京ドームで開催されたプロ野球のオールスター・ゲーム第1戦の試合開始前に、斉藤惇理事長、立浪氏、権藤氏、花束のプレゼンターとして中日の高橋周平選手、広島東洋の緒方孝一監督が出席され、大観衆の中で行われました。

また、特別表彰の脇村春夫氏の表彰式は、台風のため1日順延となり8月16日（金）に、阪神甲子園球場で開催された第101回全国高等学校野球選手権大会の第2試合開始前に行われました。斉藤理事長、脇村氏が出席され、公益財団法人日本高等学校野球連盟の八田英二会長から、脇村氏に花束が贈呈されました。

次に、2020年の殿堂入りは、第60回競技者表彰委員会から田淵幸一氏、第59回特別表彰委員会から前田祐吉氏、石井連藏氏が選出されました。

これにより、殿堂入り顕彰者は、特別表彰108名、競技者表彰99名で合計207名となりました。

また、様々な分野で日本野球の発展に貢献した方々や表彰制度についての研究を行うため、特別表彰研究会を設置し3回にわたり会議を行いました。そして、この研究会を発展的解消し、3月より表彰委員会規程改正小委員会を発足いたしました。

4. 普及・広報活動

野球振興につながる事案に積極的に対応し、また当館を紹介する記事、番組の取材

や撮影に積極的に協力して広報に努めました。全国野球振興会(プロ野球 OB クラブ)主催の全国少年野球教室にも、当館のパンフレットを12,000部提供するなど、開催に協力いたしました。

5. 資料収集

博物館の基礎ともなる展示資料及び図書の収集を積極的に行いました。ご協力いただいた皆様には深く感謝いたします。

①収集資料:456点(前年319点)

②収集図書:911冊(前年864冊)

尚、資料収集に際しては、将来に何を残すかを組織的かつ円滑に行うために、「収集資料検討委員会」(原則、毎月1回開催)において協議し決定しております。

6. 館外活動

球界関係、地方公共団体や類縁機関などが主催の展覧会やイベントに際し、資料の貸出に加え、企画の相談にも対応するなど積極的に協力し、野球振興に努めました。甲子園歴史館「マイナビオールスター特別展」、「プロ野球ドラフト会議」、プロ野球球団周年事業等合計16件の貸出を行いました。

7. 野球殿堂ホールのリニューアル

リニューアル検討委員会で協議された、野球殿堂ホールのレリーフ掲額場所の増設は、殿堂ホールの格調を維持し、今後10年程度耐えうるレリーフの掲額スペースを確保する手段を検討した結果、掲額展示用什器の新設に決定し、10月29日(火)に設置いたしました。

8. その他

12月に「公益財団法人」移行後、2回目となる内閣府の検査が入りました。前回の検査で指摘された事項もクリアしており、法人会計も含めて改善指摘事項もなく、公益法人としてしっかりとした運営をしているとの評価をいただきました。

また、6月3日(月)に館長の廣瀬信一が退任し、同日、庄司正信が新館長に就任しました。